



今年度の取り組み

平成27年度の取り組み	平成27年										平成28年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
①タイラギ浮遊幼生の来遊状況の確認			←→										
②タイラギ着底状況の確認			←→										
③タイラギ餌料環境等の好適環境条件の把握			←→										
④立ち枯れへい死の原因の検討			←→										
⑤タイラギ人工種苗を用いた生残・成長の確認						←→							
⑥漁船漁業の操業状況の把握（漁業日誌）	←→												
⑦凹凸覆砂畝型漁場による浮泥堆積の低減効果の確認			←→										
⑧凹凸覆砂畝型漁場の地形の持続時間の確認			←→										
⑨凹凸覆砂畝型漁場のメンテナンス技術の検討			←→										
⑩検討会												○	
⑪ありあけうみ通信の発行	←→												

第7号  
(2015.6.29)

代表機関 一般社団法人 全国水産技術者協会  
Tel. 03-6459-1911 Fax: 03-6459-1912

いであ株式会社 株式会社シャトー海洋調査  
株式会社オオスミ 株式会社日本海洋生物研究所

五月二十二日に学識経験者、試験研究機関および漁業関係者などを構成メンバーとする検討委員会を開催し、平成二十七年の調査方針・調査内容を協議しました。

平成二十七年度は、委員からのご意見を踏まえ、次に示す方針に沿って凹凸覆砂畝型の有効性を実証し、たいらぎ漁の再生に向けた取り組みを進めていきます。

- 方針一 タイラギの浮遊幼生の来遊状況や着底状況等を確認する。(①、②)
- 方針二 タイラギの餌の質や量に着目してへい死原因を解明する。(③、④、⑤)
- 方針三 凹凸覆砂畝型漁場による漁船漁業への効果を検討する。(⑥)
- 方針四 凹凸覆砂畝型による浮泥堆積の低減効果等の確認、持続的利用のためのメンテナンス技術の検討を行う。(⑦、⑧、⑨)
- 方針五 地元の漁業関係者、研究機関等と情報を共有し、相互に協力して有明海のたいらぎ漁業再生に向けた取り組みを進める。(⑩、⑪)

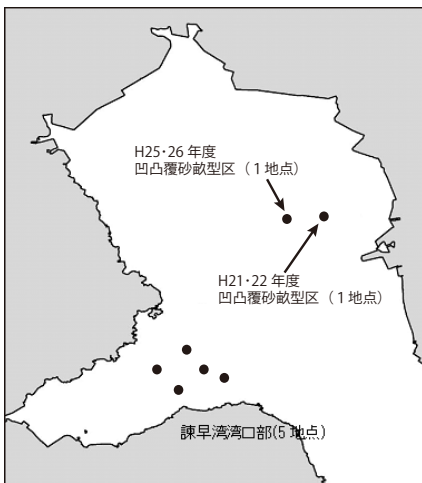
①タイラギ浮遊幼生の来遊状況の確認

タイラギ浮遊幼生の発生状況や覆砂漁場への来遊を確認するために、浮遊幼生調査を平成二十年度から毎年実施しています。

調査地点は二箇所の覆砂漁場に加え、有明海湾奥部での浮遊幼生の発生状況を把握するために諫早湾口部の五箇所としています。

今年度は六月十日に第一回目の調査を実施しました。調査は、九月末までの期間に概ね七日から十日間隔で実施する予定です。

また、今年度より福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県の四県協調の二枚貝類の浮遊幼生調査が実施されます。本事業では、浮遊幼生の来遊状況の結果を関係各機関に報告することにより、四県協調の二枚貝類の浮遊幼生調査に協力してまいります。

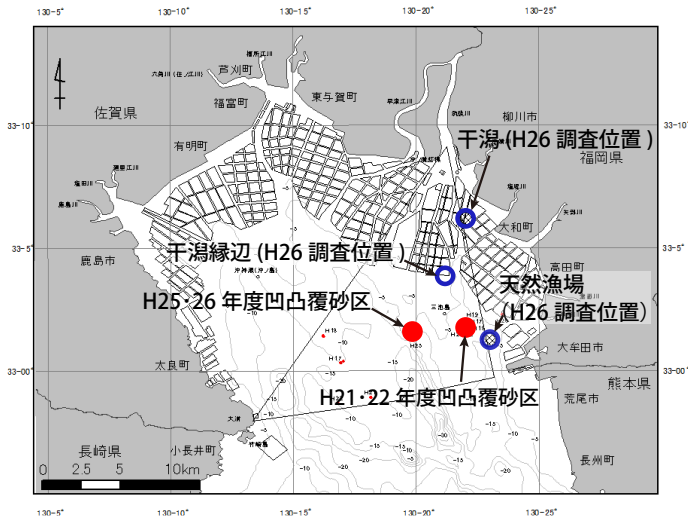


タイラギ浮遊幼生調査地点

### ② タイラギ着底状況の確認

今年度のタイラギの着底状況を確認するため、凹凸覆砂畝型漁場、天然漁場および干潟において成貝および稚貝の生息状況を調査します。

調査位置は基本的に平成二十六年度と同一地点とし、漁業者や福岡県、佐賀県等の研究機関からタイラギの生息状況について聞き取りを行い、情報を収集した上で決定します。調査は、六月から二月までの期間に概ね十四日間隔で実施する予定です。



タイラギの着底状況調査位置

### ③ タイラギ餌料環境等の好適環境条件の把握

#### ④ 立ち枯れへい死の原因の検討

#### ⑤ タイラギ人工種苗を用いた生残・成長の確認

タイラギは主に植物プランクトン等の海水中の懸濁物や底泥中の微細藻類を餌としています。凹凸覆砂畝型漁場、天然漁場および干潟等で海水や底泥を採集し、それらに含まれる餌の量や質を場所ごとに比較します。あわせてタイラギを採集し、成長や栄養状態を分析します。また、観測機器を設置し、水温、塩分、溶存酸素量、クロロフィルa量および濁度を連続的に観測し、タイラギが生息する環境の水質を把握します。このように、環境条件と生理的条件の両面から取り組むことにより、へい死の原因を説明します。

海水、底泥およびタイラギの採集は、五月から二月までの期間に概ね十四日間隔で実施する予定です。測器は六月から九月、十一月から二月に設置する予定です。

昨年度の調査結果からみて、タイラギの生息状況は非常に厳しい状況にあります。この状況を鑑み、人工的に生産されたタイラギ種苗（稚貝）の活用も検討しています。

### ⑥ 漁船漁業の操業状況の把握（漁業日誌）

覆砂による漁場造成により、たいらぎ漁やたいらぎ漁以外の魚介類漁の増産効果が期待されます。このことから、刺網やかご漁業等の漁業者の方に操業日誌（操業場所や漁獲量を記録して頂く）の記入を依頼し、その効果を解析します。

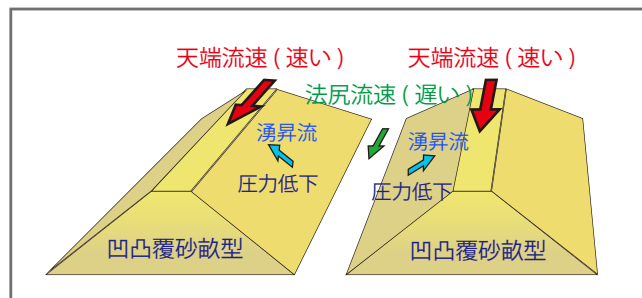
### ⑦ 凹凸覆砂畝型漁場による浮泥堆積の低減効果の確認

#### ⑧ 凹凸覆砂畝型漁場の地形の持続時間の確認

#### ⑨ 凹凸覆砂畝型漁場のメンテナンス技術の検討

凹凸覆砂畝型漁場は、並列に配置すると凸部と凹部で流速差が生じ、斜面に沿って下から上に向かう流れ（湧昇流）が生じると考えられます。これにより浮泥堆積を低減できることが期待できます。この流速を把握するために流速計を設置し、連続的に観測を行います。

また、凹凸覆砂畝型漁場を持続的に利用するために畝型形状の安定性の確認やメンテナンス技術の検討を行います。



### ⑩ その他たいらぎ漁業再生に向けた取り組みについて

有明海周辺四県の関係各機関と情報を共有し、協調して調査に取り組んでいきます。また、タイラギの専門家を招いて勉強会等を開催し、タイラギのへい死原因の解明に取り組んでいきます。

次号は、現地調査の実施状況や浮遊幼生調査、タイラギの生息状況調査の結果（速報）を皆様に報告できる予定です。